



# 平成 23 年度 東京カンファレンス報告書

## 目次

1 代表挨拶-----	2p
2 Tokyo conference 概要-----	3p
3 プログラム日程-----	4p
4 各プログラム概要-----	4-9p
i テーマ①global healthcare について日米・日本の取り組み	
ii テーマ②東日本大震災後のエネルギー問題の行方	
iii 高校生プログラム	
iv 京都企画	
v 広島企画	
vi 最終ディスカッション	
5 一年間の振り返り-----	9-10p
i プログラム内容について	
ii プログラム運営について	
iii 引き継ぎについて	
iv 渉外について	
v 会計について	

(別添)資料 会計報告書

## 1 代表挨拶

私の HCAP との接点は 2010 年 5 月 20 日、5 年目となる HCAP の選考結果が送られてきたところから始まります。私の選考結果通知には「第 5 期派遣メンバーとして、また、HCAP 東京大学運営委員会 5 期の「代表」として、今年度の HCAP に参加してほしい。」との旨が書かれてありました。出会ったことのない 15 人のメンバーが、果たして私を代表として受け入れてくれるのだろうかと不安になり、身の引き締まる思いがしました。メンバーとの出会いから、HCAP「5 期」としての活動が始まりましたが、最初はメンバー一人一人の個性が強く、とてもまとまった集団とは言いにくいものでしたが、活動を重ねていくうちに次第につながりを強めていったと思います。

夏には、ハーバード大学に応募書類を提出しなければならず、それは翌年 3 月に開催する東京カンファレンスの内容の考案・作成というものでした。なかなか意見がまとまりませんでした。何度も議論を重ね、最終的にはメンバー全員が納得のいくカンファレンス案を作成することができ、ハーバード大学との 5 年目の提携に成功することができました。これも、ひとえに皆様方のご支援の賜物であると心より感謝致しております。心よりお礼申し上げます。

秋には、上の代との勉強会も回数を重ねる中で、「5 期メンバーの思いが反映されていない」、との指摘を受け、検討し直さなければならない箇所が数多く見つかりました。しかし、このような厳しい指導もあり、我々 5 期は「HCAP」という一つの試練に挑戦することで、お互いが成長する機会と捉え、切磋琢磨することができました。

冬には、招聘するスピーカーと連絡を取り合い、施設の予約、協賛企業との連絡など、カンファレンスの実行に向けて励む日々が続きました。この期間に飛び交うメールの件数は非常に多かったと記憶しております。HCAP 関連のメールは数千件にもおよびます。いかに、メンバー一人一人が与えられた責務を遂行していたかがわかります。

以上のように、HCAP での活動は、まさに「一年間を費やしたプログラム」となりました。しかし、ご存じのとおり、今春 2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災によって、東京カンファレンスは中止を余儀なくされました。待望のカンファレンスが中止になるという事態を受け、メンバーにとって悔しい気持ちを隠しきれませんでした。そんな状況でも、メンバー全員が何とかカンファレンスの実現へと強い意志を貫き通すことで、例外的に実施が認められ、夏の実施につなげることができました。

本報告書では、通常一年のところを更に半年間かけ、一から作り上げた東京カンファレンスの内容だけではなく、5 期メンバー一同の思いが組み込まれております。東京カンファレンスの最終日には「ファイナルディスカッション」を行い、一人のメンバーが「一年半かけて準備したこの一週間はあまりにも早かった。・・・しかし、準備してきた価値は十分にあった」と目頭を熱くして語ってくれました。ハーバード本部との交渉を続け、夏に開催できた東京カンファレンスは、HCAP に対する 5 期の意思と決意の表れそのものでもあります。

以上を踏まえまして、ここに HCAP 東京カンファレンスの報告書を同封いたします。どうぞご一読下さいますようお願い申し上げます。

HCAP 東京大学運営委員会 5 期代表  
高橋 亮

## 2 Tokyo conference 概要

主催	HCAP 東京大学運営委員会 5 期
日程	2011 年 8 月 11 日～8 月 18 日
場所	東京大学駒場キャンパス、京都、広島
参加者	東京大学生 12 名、ハーバード大学生 11 名
テーマ	Global Healthcare Systems ~A Changing Landscape
内容	上記テーマを中心にした講演・フィールドワーク

後援 東京大学教養学部

協賛 株式会社ベネッセコーポレーション  
株式会社プロトコーポレーション  
ゼネラル・エレクトリック・カンパニー  
株式会社ディーエイチシー  
アライブ株式会社 伊藤喜之  
東京大学理事 江川雅子  
(順不同,敬称略)

今回の HCAP Tokyo Conference は、三月の東日本大震災とそれに伴う Conference の中止を受けて、本来 3 月に行われるはずであったものを 8 月に延期する形で行われました。これは HCAP の Harvard 本部の決定によるものであって、例外的な措置として開催が可能になったことです。

今回の Conference では、東京・京都・広島という三都市を舞台とし、8 月 12 日～18 日に行われました。参加者は、東京大学側 12 名、ハーバード大学側 11 名です。例外的事情により、本来の HCAP の Tokyo Conference とは異なり、ハーバード大学側の参加者には HCAP に属していない人もいましたが、プログラムの内容は例年と変わらない形で行われました。

プログラムのテーマは、3 月に予定されていた“Global Healthcare Systems ~A Changing Landscape”であり、それを引き継ぐ形で講演者の招聘やイベントを企画しました。

### 3 プログラム日程

- 8月11日(木) 成田空港で出迎え
- 8月12日(金) Opening Ceremony/駒場キャンパスツアー  
Japanese Healthcare System についての講演 (井伊雅子教授)  
Welcome Party
- 8月13日(土) 築地見学  
Global Health Problem の講演 (神馬征峰教授、安岡潤子助教授)  
Lever son verre 駒場 で夕食/カラオケ体験
- 8月14日(日) 妙心寺で禅体験/二条城見学/清水寺見学
- 8月15日(月) 広島平和記念公園散策/被爆者の講演、平和記念資料館見学  
宮島散策
- 8月16日(火) Nuclear plant problem についての講演 (入江一友客員教授)  
寿司パーティー
- 8月17日(水) ファイナルディスカッション  
高校生企画/Green Line にて Farewell Party
- 8月18日(木) 朝食、荷造り/本郷キャンパスへ移動

### 4 各プログラム概要

#### i テーマ(1)Global healthcare について日米・日本の取り組み

##### i - i 講演 井伊雅子教授「日米の医療保障制度の比較における日本の医療保険制度」

###### 1 内容

一橋大学の井伊雅子教授にご講演頂きました。

###### 2 背景

日米の大学生が集まる場であることを考慮し、global healthcare system の中で特に日本とアメリカ合衆国の医療保険制度に焦点を当てました。アメリカ合衆国においてオバマ大統領による医療保険制度改革が行われる中、日本の医療保険制度が国民皆保険制度の好例として比較されることが少なくありませんが、実際は日本の医療保険制度もいくつかの問題を抱えています。今回、井伊教授のご講演を頂き改めて両国の保険制度を客観的に見つめ直しました。

###### 3 目的

日米両国の医療保険制度を客観的に比較したのち、日本の医療制度が直面している問題点を考えることを目的としました。

###### 4 達成点・反省

###### i 達成点

皆保険制度開始時からの社会情勢の変化への未対応、財政的負担の地域格差などの日本の医療制度の問題点を明確にすることができました。

###### ii 反省

特に日本の医療保険制度の理解が少し難解であったという声がハーバード生から聞かれたので、前提知識の共有を充実させるべきでした。

## i - ii 講演 神馬征峰教授・安岡潤子准教授「発展途上国支援における日本の役割」

### 1 内容

東京大学の神馬征峰教授と安岡潤子助教授に「発展途上国」における公衆衛生に関するご講演を頂きました。

### 2 背景

i - i の井伊教授のご講演では、global healthcare system を各国内で完結した医療保険制度として捉えましたが、より広範囲で連動する healthcare system、例えばいわゆる「発展途上国」が自国内の公衆衛生を「先進国」の協力の下で改善していくような動きを指す言葉としても解釈し得ると考えました。そういった点に関して実際、現場に足を運びご尽力なさっている神馬教授、安岡教授に個人的な体験談も含めたお話を頂きました。

### 3 目的

「発展途上国」における NGO や政府の活動を理解したのち、それらの global healthcare system における構造上の問題など、より一般的な問題を考えることを目的としました。

### 4 達成点・反省

#### i 達成点

実際の現場でのお話がかなりの部分を占めていたため、非常にイメージがしやすく NGO や政府が行っている活動が理解できました。将来、NGO に所属しこのような活動をしたいと考えていた参加者もいたため活発な質疑応答もなされました。

#### ii 反省

一般的な話に割く時間が足りなくなってしまったため、質疑応答時に補完すべきだったと思います。

## ii テーマ(2)東日本大震災後のエネルギー問題の行方

### 講演 入江一友客員教授「Energy Problem in Japan –Centering on Nuclear Energy–」

#### 1 内容

東京大学の入江一友教授にエネルギー問題について、原子力を中心にご講演を頂きました。

#### 2 背景

3.11 後にエネルギー問題が日本全体で問題となり、人々の関心の的となっています。エネルギー問題は地球に住む我々、しかも日本という資源の少ない国では特に重要な問題です。そこで、この分野に詳しい教授にお話を伺い、またハーバード生のアメリカからの視点も交えることで、地球規模の問題について理解を深めました。

#### 3 目的

エネルギー問題について、日本の国土条件も視野に入れた知識を学び、また将来のエネルギー対策について考えを深めることを目的としました。

#### 4 達成点・反省

原子力だけではなく、エネルギー全般のお話を伺うことで、この問題の難しさや深刻さを身にしみて感じることができました。また、今回 3.11 を直には体験しなかったハーバード生に、災害後の問題についてきちんと伝える良い機会を作ることができました。

### iii 高校生プログラム

#### 1 内容

東京大学、ハーバード大学、日本国内の高校の各学生三者による交流プログラム

第1部：スピーチ

第2部：グループディスカッション+発表「テーマ:理想の教育とは」

第3部：自由歓談

#### 1-i 内容詳細

第1部では東京大学から2名、ハーバード大学から3名の生徒が高校のときに何をしていたか、大学で何をしているか、そして将来展望、さらには大学選択の理由についてのスピーチを行いました。

第2部では東大生・ハーバード生・高校生が其々10人程のグループに分かれて「理想の教育とは何か」というテーマのもと、ハーバード、東大其々の長所と短所を比較しつつ議論を行いました。最後に各グループの代表として指名された高校生が結論を発表しました。理想というひとつのゴールに向かって其々の違いをあげていく過程でお互いが何を思い、何を学んでいるのかを交友することが可能となり、単調になりがちな日々の学習に新鮮な風を吹き込む有意義な会になりました。

第3部の自由歓談では高校生、ハーバード生、東大生が混ざって自由におしゃべりをしました。高校生は海外大学受験に必要な情報を直接現地の学生から直接聞ける機会でもあり、積極的にハーバード生と会話する様子が見られました。

#### 2 背景

近年国内から海外の大学を目指す学生が増えています。しかし彼らは十分な受験の情報や、実際に海外大学にいる学生、そして国内の学生と交流する場が少なく、判断材料に乏しいのが現状です。大学生とは初めて自分が24時間を自由に過ごすことができる時期でありどの大学で何をするかというのは自分の人生を左右するような非常に大切なことです。そこで私たちは実際の「生の声」を聞く機会を設けることで、大切な選択を少しでも手伝うことができればと思い、ハーバード生、東大生、高校生の交流会を企画しました。

#### 3 目標

「理想の教育とは」という抽象度の高い議題について東大生、ハーバード生、高校生それぞれの立場から幅広く意見交換をしつつ、自分の高校時代、大学時代をどのようにすごしたらいいかのイメージを持ってもらうことが目的です。

#### 4 達成点・反省点

##### i 達成点

どのグループでも具体的に結論が出ており中身のある議論をしていたことが伺えました。高校生にとっては今後の展望を考える上で大きな道しるべを得る場になったのではないかと自負しております。会の進行もスムーズでハーバード生も東大生も非常に意義を見出していました。特にハーバード生の中にはこのような交流企画を自国でも実施したいとの声も聞かれました。

##### ii 反省

第一部のスピーチの議題が広すぎたため、東大生は大学選択の理由を話すに留まり、彼らが

行っている課外活動などを共有できませんでした。

#### iv 京都企画

##### iv-i 京都観光

###### 1 内容

夜行バスで京都に到着後、西本願寺で朝食を取り、その後妙心寺へ行き座禅体験を行いました。昼食後は二条城と清水寺をグループ別に散策し、夜には宿泊先である仁和寺の宿坊で懇親会を行いました。

###### 2 背景

1週間という短いプログラムの中で、グループベース個人ベースに関わらずいかに素直な議論ができるかを考えた時、互いの価値観の根底にある、文化的背景や歴史を共有することが重要だと考えました。

###### 3 目標

日本人の考えの基盤となっている文化を直接肌で感じてもらうことが目的です。

###### 4 達成点・反省

###### i 達成点

グループに分けてある程度の自由時間を設けたことで、ハーバード生からも心にもゆとりができたと言われました。清水寺の夜の拝観では「こんな美しいものは今までに見たことが無い」と言うハーバード生もいました。

###### ii 反省

反省点としては、仕方の無いことですが翌朝のスケジュールが非常にタイトであったことです。

##### iv-ii 座禅体験

###### 1 内容

妙心寺の春光院で座禅体験を行い、僧の英語による説法を聞いたりお寺の中を拝観したり、お茶や和菓子を頂きました。

###### 2 背景

タイトなスケジュールの中でも自らと静かに向き合う時間をとることで、思考の整理の場を持ちたいと考え、企画しました。

###### 3 目標

その場に身を委ねて、雑念を取り払う座禅の考え方に触れることが目的です。

###### 4 達成点・反省

指導をして下さった方はアメリカで哲学を学んだ経験があり、その非常に明快な禅と仏教の説明は、ハーバード生と東大生どちらにとっても非常に有意義なものでした。

#### v 広島企画

##### v-i 原爆資料館見学・被爆者講演

###### 1 内容

広島平和公園を散策したのち原爆資料館を訪れ、さらに資料館にて被爆者の一人である小

倉様のご講演を頂きました。

## 2 背景

核兵器や戦争を議論するとき、原爆を、そして広島を所与の前提として私たちは置いています。被爆地として今も絶えず原爆を語り続ける広島と、そしてその証人である被爆者の方をお招きし、改めて核兵器や戦争について考えることを試みました。

## 3 目的

原爆の実態に近づき、被爆者はそれをどのように受け止めているのかを知り、議論により各個人が得たことを共有することを目指しました。

## 4 達成点・反省

### i 達成点

特にハーバード生にとって広島の実験は衝撃的であったように思いました。中でも被爆者の淡々とした原爆の語りを聞き、自分はいかに彼らの存在の大切さに気づいていなかったか、というように衝撃を受けた学生は多かったようです。

### ii 反省

当初私たちは会議室を予約し議論の場を設けていましたが、移動等に想定外の余分な時間をかけてしまい、結局全体議論の場を設けることができず、思いの共有は個人レベルに任されてしまったことが反省点として挙げられます。

## v - ii 宮島観光

### 1 内容

小グループに分かれて宮島を自由に散策しました。

### 2 背景

宮島は世界遺産にも登録される日本の名勝であり、紅葉饅頭や牡蠣といった特産でも知られ、島には観光客が絶えません。日本の景色や食を味わいつつ、カンファレンス中盤において心身をリフレッシュするとともにハーバード大学と東京大学の懇親をさらに深める狙いが本企画の背景です。

### 3 目的

宮島の景色や文化を自由に楽しみ、両大学の親睦を深めること。

### 4 達成点・反省

ハーバード生、東大生とも笑顔の絶えない散策でした。比較的少人数ごとが自由に行動し、両大学の打ち解けた親睦を深められました。時間の関係上、厳島神社に全てのグループが入ることができなかったことが反省点です。

## vi 最終ディスカッション

### 1 内容

メンバー全員で円になり、今回のカンファレンスから得たことや感じたことを一人ずつ発表し、ビデオに記録しました。

### 2 背景



カンファレンスの総まとめとして何か残すこと、一人一人の気持ちを共有しカンファレンスへの思いを深めることを目指しました。

### 3 目的

カンファレンスへの様々な思いを伝え合うことで、皆でこのカンファレンスを作り上げたという気持ちを深めるため。

### 4 達成点

東大生にとって、ファイナルディスカッションはハーバード生を前に言葉を伝える最後の機会であり、'東京カンファレンス参加者'という一週間前まで他人だった抽象的な集団が、其々お互いの心をともした時間でした。

## 5 一年間の振り返り

### i プログラム内容について

今回はハーバード大から与えられた Global Healthcare Systems というテーマのほかに、3.11 以後の情勢の変化を踏まえて原発関連のテーマも盛り込みました。'Global Healthcare System'「各国の医療保険制度」というテーマに関しては、日米の医療保険制度の比較を通じて日本の医療保険制度の功罪を検証しました。またそれだけではなく、global health という切り口から日本の海外への試みを紹介することで、日米双方の学生が将来の世界に向けて取りうるアプローチを議論することを目的としました。反省点としては、一つのテーマに対し二つのアプローチをとったことで結果其々の掘り下げが浅くなったということです。また他のプログラムとの関連性という点でも、プログラム全体を通じて一つの結論に達するというゴールが設定することが難しかったことが問題点として挙げられました。其々のプログラムに関しての評価は高かったので、以後プログラム同士の関連性をあげ、さらに有意義なカンファレンスを設計することが次期以降の課題です。

### ii プログラム運営について

HCAP 東京大学運営委員は当代で 5 期目を迎え、5 期 16 人で 2010 年度より活動を行ってきました。8 月に延期となった今回の東京カンファレンスには 16 人中 13 人の 5 期運営委員が携わり期間中の運営を行いました。

東京カンファレンス開始まで何度もミーティングを行い、最終確認を行いました。期間中にはやはり予期せぬ事態も幾度となく起こりその対応に戸惑う場面も多く見られました。反省点としては、運営委員の情報伝達がうまくいかなかったために、予定スケジュールよりも時間がかかってしまいその後の行動に影響がでることが何度かあったことです。運営だけでなく参加生にもきちんとした情報伝達を行う必要がありました。

しかし、1 年半同じ時間を共有し東京カンファレンスという一つの目標に向けて共に歩んできた 5 期内のチームワークのおかげで、トラブルも相互に助け合いながら乗り切ることができたように思います。リーダーの指示だけによるボトムダウン式ではなく、全員が互いの意見を出し合って議論しコンセンサスをとるという運営の仕方は、確かに全員の意見がまとまらない場合はコンセンサスに至るまで時間がかかるものでした。しかし、一人一人が一つの事柄に対して真剣に考え、どうしてそれをするのか、又そうでならなければいけない理由は何かという企画一つ一つの意味

をしっかり捉え把握してきたからこそ、全ての企画に対する運営各自の考えや思いは前者のボトムダウン式で行う運営方式よりもはるかに強いものであり、そうした企画をハーバード生に提示し運営できたことは非常に良かった点であると思います。

### iii 引き継ぎについて

例年通り、今年も 16 人の新入生をメンバーとして選出し、全員に役職を負ってもらうことになりました。団体の性質上上の期が下級生の活動に混じることはほとんどないため、5 期から 6 期に引き継ぐ際に役職マニュアルを作成しました。また、代表や副代表など必要な役職については直接会って口頭での引き継ぎも行い、そこで仕事の具体的内容の他に HCAP の理念等についての共有も行われました。しかし、これだけで団体の運営をしていくことはやはり難しく、5 期 6 期の間でより密接な関係を作り出し直接会って話す機会を増やす必要性が出てきたため、週 1 回昼食を共にして親睦を深めるという取り組みも行いました。疑問点は直接会って解決できたので、いい試みであったと言えます。

また、今年は 8 月にカンファレンスが開催されたので、プログラムの一部で 6 期に参加してもらうことができました。実際のカンファレンスの雰囲気を感じ、モチベーションを高める非常に良い機会だったと思います。

### iv 渉外について

反省点としては渉外全体が冬頃に中心に行われたのはやはり遅く、企画趣意書等をより早く準備し、より多くの個人や団体の方にお声かけできればよかったという点があげられます。

また渉外においては確かに企業側のメリットも重要ですが、それ以上に私たちの情熱が見られていることも多いということに気づくのが遅かったと思います。特に渉外の初期段階においては HCAP の表面上の「すごさ」に終始し、私たちがいかなる思い入れでこのプログラムを成功させようとしているのかが伝えられませんでした。

そのほかの反省点としては、渉外においては 5 期も 6 期も一体であるという意識を持ち、引き継ぎやマナー等教育を継続的に行っていくほか、個人レベルでの期ごとの繋がりをより強固にすることが必要だと感じました。

### v 予算について

本年度は、12 月に東京カンファレンスのプログラムの大幅な見直しを行ったため、最終的に予算が確定したのは例年と比べると遅い時期でした。予算の作成方法としては、例年通り、各プログラムに必要な費用の概算を担当者に提出してもらい、それらを合算するという形をとりました。HCAP の理念に共感して下さった企業や個人の方からの寄付により、カンファレンスまでには、予定していた経費以上の資金を集めることができました。しかし、いざカンファレンスが始まってみると、想定外の出費も多く、予算にある程度のゆとりを持たせておく必要性を痛感することとなりました。各プログラムが確定した後は、交通費・会場費・見学費を削減することは難しいため、これらの経費に関しては予算作成の時点で細心の注意を払う必要があると感じました。